



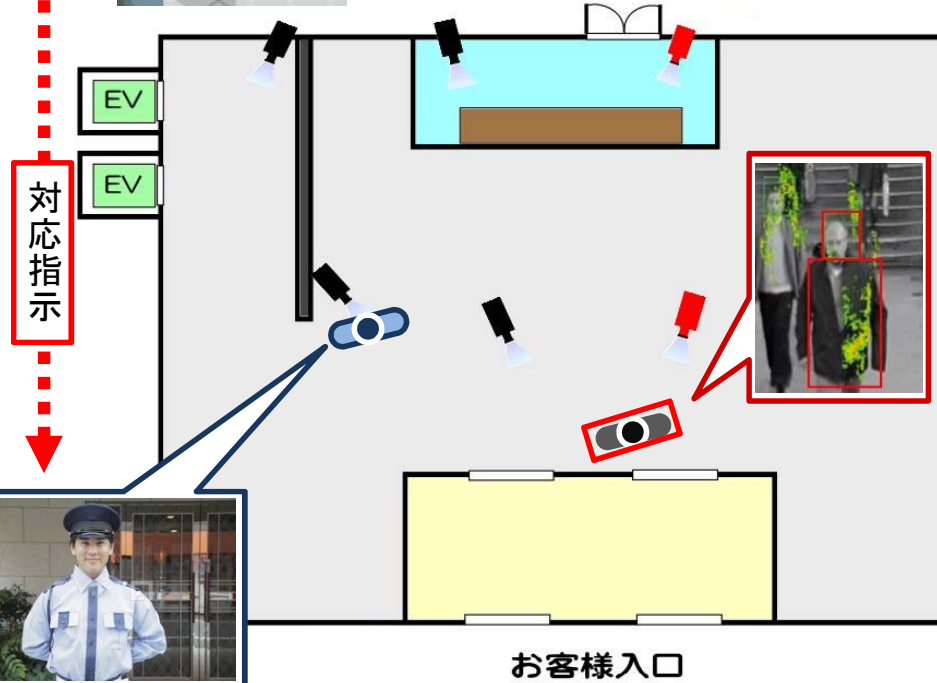


警備員の日と次世代セキュリティシステムの 二重チェックで“不審者の侵入をがっちりガード”

施設警備において不審者や危険人物を侵入させないことが理想ですが、実際は迷惑行為や犯行等が起きてからの事後対応になります。そこで不審者を事前検知するディフェンダーXを導入することで、コストを抑えつつセキュリティのレベルアップを図ります。

-  既存の防犯システムとの併用でセキュリティをレベルアップ。
-  警備員の経験値を補完し、コストを抑制しつつセキュリティレベルをアップ
-  不審者検知をメール送信もできるため、施設規模に関係なく運用可能。
-  クレーム等で興奮状態のお客様の発見にもつながります。トラブル防止とサービス向上に！

監視センター等が無い施設の場合はディフェンダーXからスマホ等に直接メール送信することもできます。(オプション)



不審者を事前検知する 次世代セキュリティシステム

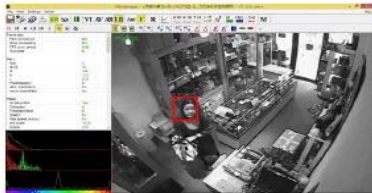


DEFENDER-X
ディフェンダーXがわかる動画公開中

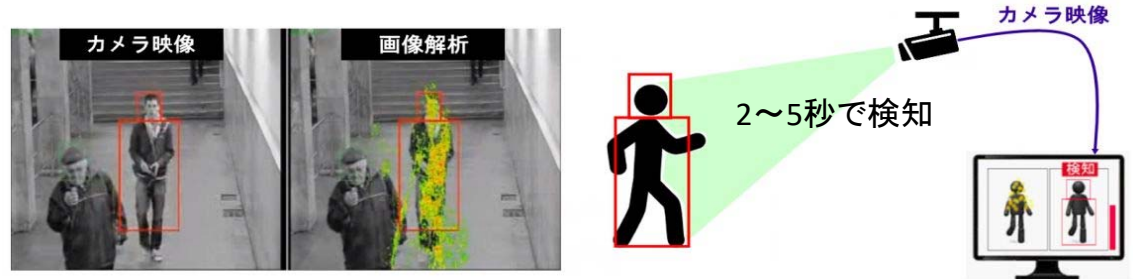
DEFENDER-Xは、犯行に及ぶ前の特有の精神状態をカメラ映像から分析し、不審者を事前に検知する、まったく新しい防犯システムです。事前のデータ登録も必要無く設置後すぐに効果を発揮。
人は肉眼ではわからないレベルで振動しており、その振動は精神状態にリンクしています。それを解析する特許技術(ロシア・ELSYS社)により、真の防犯システムが完成しました。

録画映像の事後解析で犯人特定!?

ディフェンダーXは、不審者の事前検知だけでなく、録画された映像を解析し不審者を検知することも可能です。犯人逮捕に寄与するケースもあります。



監視カメラ映像から精神状態を分析し不審者を事前に検知



振動からストレスや恐怖、攻撃性データを検出すると“不審者と判定”

精神状態を可視化

実画像 → 解析画像

解析画像の評価

- 攻撃的
- 緊張
- ごきげん
- 平静
- 安息
- 疲労
- 倦怠

その他を含め 50のパラメータで解析

通常の状態 恐怖を感じた状態

緊張を感じた状態 攻撃性が高い状態

一定レベルで赤枠表示

不審者か否かの判定

証拠の保全
犯罪の未然防止
犯人逮捕

追尾
声かけ
人員配置

ソチオリンピックや2015年の伊勢志摩サミット、空港等で実績

ソチオリンピックでは、全ての入場ゲートにディフェンダーXが設置され期間中、2600人を不審者として検知。そのうち92%が危険物所持や入場券のない不正入場者でした。日本でも2015年の伊勢志摩サミットやラグビーの天覧試合の警備などで試験運用されたことがマスメディアでも紹介されています。